

久保 凜一郎

株式会社都市環境研究所 計画グループ

卒論テーマ 都市部の市街地に立地する遊休倉庫を活用した「エリアリノベーション」に関する研究—東京都墨田区本所地区および台東区蔵前地区を対象として—（岡田・落合研究室）

修論テーマ 東東京エリアにおける遊休倉庫を活用した「エリアリノベーション」の促進方策に関する研究—東京都内5地区の倉庫街を対象として—（岡田・落合研究室）

出身高校
姫路市立
姫路高等学校

好きな「まち」
神戸・姫路



1 どんなお仕事をしていますか？

2 お仕事での目標はなんですか？

3 学生時代に打ち込んだことは？

4 後輩に就活へのアドバイスを！



1

私の仕事は、都市・地域をフィールドに、まちの課題や特徴を読み解き、目指すべき将来像を提案し、それを具現化していくことです。その領域は企画からプランニング、設計デザイン、事業化及びマネジメントまで幅広く、川上から川下までのプロセスすべてに関わることが特徴です。私は今年で3年目ですが、土地利用計画や景観計画など上位計画の策定から、研究施設群の再編や密集市街地の防災まちづくりなど地区単位の計画、文化財の保存・活用、ウォークアブルの推進に向けた社会実験など個別の設計デザインまで、幅広い分野の仕事に携わっています。

2

前述の通り、さまざまなテーマを扱うため、幅広い知識と技術が必要とされます。社会人となった今も勉

強の日々で、最新の情報収集のためにアンテナを張り、気になったら実際に訪れてみるなど、自発的に知識を求め、自分の手で稼ぐことを大事にしています。

まちづくりの潮流は、これまで

の成長を前提としたものではなく、「国から地域」「行政・専門家から住民」「直すから支える」へと変化しています。今後は、幅広い分野に携わるメリットを活かし、地域を総合的に捉え、明確な課題抽出と必要な技術を提供できる「まち医者」のような存在になることが目標です。

3

大学院時代の修士研究が特に印象に残っています。舟運で栄えた蔵前や清澄白河など東東京の倉庫街を対象に、遊休倉庫を活用したエリアリノベーション展開の要因とその促進方策について論考しました。指導教員であった岡田先生と落合先生には、豊富な知識や経験の下、研究の立ち上げから熱意を持って指導いただき、論理の体系化や表現方法、質疑対応など

の技術面はもちろんのこと、導いた結果の社会的意義の重要性も学びました。研究で学んだ「自分が社会に対して何ができるのか」という視点は、社会にでた今でも大切にしています。

4

まち科での学びを通して、地元のまちづくりに携わりたい、自分の手で計画・デザインしたい、現場管理として完成を見届けたいなど、自分の興味が固まっている人もいれば、迷っているという人も多いと思います(私もそうでした)。私は大学院に進学し、後輩指導や研究室運営などのマネジメント、学会発表・プロジェクトなど対外的な活動の機会を通して視野が広がり、自分のやりたいことや強みが明確になりました。

まずはインターンシップやアルバイトなど、自分の興味に飛び込んでみるのが大事です。その上で、進学してスキルアップを目指しながら進路をじっくり考えるのもひとつの選択肢だと思います。

漁港周辺のまちづくり構想策定に向けたワークショップ

